

チャリティー 文化講演会開催



▲講師：植木理恵氏

11月21日に岐阜市文化センター小劇場にて、植木理恵氏を講師に招き「人生が楽しくなる心理学」と題する講演を行いました。

今回は、各支部での取り組みおよび連合岐阜での周知をいただき、情報誌の掲載のほか、中日新聞・岐阜新聞や、近隣住民に対する回覧による開催告知をしたことにより、多くの問合せがありました。

開催日当日の21日まで入場整理券を求める問合せがあり、岐阜市文化センターへの問合せも多く寄せられたとの報告を受けました。当日は天候も良く、各方面からのお越しいただき、結果、入場者数は535名と昨年に比べ大幅に増加しました。講演内容は、分かりやすい語り口と、途中で質問を受けるなど、飽きさせない内容で、参加者からは大変良かったとの好評を多くいただきました。

また、「被災地義援金」の募金をお願いし、59,324円の協力がありました。



岐阜労福協 チャリティーゴルフ大会報告



◀優勝 / 西濃支部

準優勝 / 飛騨支部 ▶

◀3位 / 連合岐阜

11月1日、毎年恒例の第20回岐阜労福協チャリティーゴルフ大会を小春日の素晴らしい天気の中「ぎふ美濃ゴルフクラブ」において開催しました。大会には労福協各支部・事業団体・産別代表により、17チーム65名の参加があり、各支部の予選会を勝ち残った精鋭がプレーを楽しみ、結果は団体優勝：西濃支部、準優勝：飛騨支部、3位：連合岐阜の各チームとなりました。

大会ではショートコースワンオンチャリティー募金を行い、62,596円の募金協力がありました。ご協力いただきました募金は義援金として東日本大震災および熊本地震へ各労福協を通じて贈呈いたします。

第53回 岐阜県勤労者球技大会

10月22日(10月15日雨天順延)に各務原市総合運動公園にてソフトボール県大会を予定しましたが、予備日を含め台風と雨のため今年度は中止となりました。

ボウリング県大会は11月12日に岐阜市マースポルにて開催し、前年度優勝・準優勝チームを含む20チームで競い合いました。

ボウリング大会



▲上・優勝 / 濃飛乗合下呂 下・準優勝 / 関ヶ原製作所

新春のお慶びを申し上げます

東海労働金庫	専務理事	舟口 憲雄
全労済岐阜推進本部	本部長	豊田 由二
(一社)岐阜県勤労福祉センター	理事長	高田 勝之

ぎふ労福協

岐阜県労働者福祉協議会 編集発行人/高田 勝之

vol.111
2018.1.1

岐阜市錦壽町2-6-7
ワークプラザ岐阜内
TEL(058)248-6029
FAX(058)245-2410

【岐阜労福協機関紙】 連合岐阜・東海労働金庫・全労済・岐阜県勤労福祉センター <http://www.gifu-rofuku.jp/>

岐阜県労働者福祉協議会の会員並びに関係者の皆さん、新年明けましておめでとうございます。ご家族共々、健やかな新年を迎えられましたこと、お慶び申し上げます。さて昨年は皆さんにとって、どんな1年であったでしょうか？

1月には米国においてトランプ大統領が誕生しましたが、度を越した言動によって、世界を混乱させたのは皆さんもご存知の通りです。

また2月からは、政府の呼び掛けでプレミアムフライデーがスタートしましたが、現実問題として広がりは難しく、今となってはその声さえ聞かれなくなってしまいました。

そして9月、台風18号が日本の本土4島全てに上陸し、全国に大きな爪痕を残したのも記憶に新しいところです。

10月には、岐阜労福協として、常任幹事会のメンバーで、熊本地震の被災地を訪問しました。被害の大きかった

益城町や南阿蘇村を訪れ、改めて被災地への継続的な支援の必要性を感じると共に、私達自身もまさかの災害に対して、強い危機意識を持たなければならないと強く認識した次第です。

景気の動向は、日経平均株価が26年振りの高値を記録するなど、好景気と言われた一方で、50%以上の方々が、景気回



岐阜県労働者福祉協議会
会長 高田 勝之

新年の
ごあいさつ



復を実感できないとアンケートに答える等、私達が願う、安心をして暮らし、安心をして働くことができる社会とは、大きく乖離した年であったと申し上げても過言ではありません。

では今年1年がどんな年になるのでしょうか？正直申し上げて、想像が付きません。しかしながら岐阜労福協としては、取巻く環境の変化に関らず、労働団体である連合岐阜や東海労働金庫、全労済、勤労福祉センターとより一層連携を強め、働く皆さんの、少しでも安心ができる社会を目指していかなければなりません。昨年の定期総会でご確認いただいた、運動方針に沿って、今年も様々な取組みを進めていきたいと思っております。

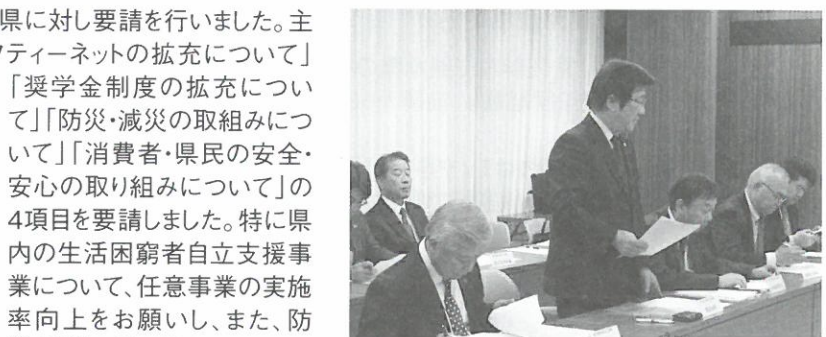
もう一点、奨学金制度の見直しについて、ふれておきたいと思っております。昨年、給付型の奨学金制度がスタートをしました。大きな前進と言えます。しかしながら現状は、対象範囲が限られている事や、給付金額についても低水準であり、より一層の拡充が求められています。今後、中央労福協とも連携を取りながら、国や地方行政への働き掛けを強めていきたいと思っております。

以上申し上げ、2018年の年頭にあたってのご挨拶と致します。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

岐阜県へ要請を実施



▲高田会長から増田商工労働部次長へ提出



▲高田会長あいさつ

11月30日、勤労者福祉の向上をめざし、岐阜県に対し要請を行いました。主な要請内容は、「格差・貧困社会の是正、セーフティーネットの拡充について」「奨学金制度の拡充について」「防災・減災の取組みについて」「消費者・県民の安全・安心の取組みについて」の4項目を要請しました。特に県内の生活困窮者自立支援事業について、任意事業の実施率向上をお願いし、また、防災・減災の取組みについて、不特定多数の人が利用する民間施設の耐震化に向けて要請しました。なお、要請に対する回答は事前の事務局折衝により当日回答をいただきました。

中央労福協 第63回定期総会開催!

「連帯・協同でつくる 安心・共生の福祉社会」 の実現に向けて

11月22日、ホテルラングウッド(東京)において中央労福協第63回定期総会が開催されました。

神津中央労福協会長から、「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」の実現に向けて、①協同事業の社会的価値と役割の発揮、②取り組みの中で一定の成果があった奨学金問題、③貧困・格差の是正と困窮者支援、④2019年に迎える創立70周年に向けての取り組みについて、今後も取り組み強化を図っていくとの挨拶がありました。

総会は2016~17年度活動報告・会計決算報告が報告され満場の拍手で採択されました。続いて2018~2019年度の活動方針ならびに2018年度予算案が提案され、満場一致で採択されました。

また、今年度は役員改選期にあたり、役員改選議案が提案され、神津会長・花井事務局長他、現執行体制が再選されました。



▲神津会長あいさつ



▲新執行体制

被災地熊本県を視察訪問!



▲阿蘇大橋崩落現場



▲再興中の熊本城



▲義援金贈呈

10月13日~14日に、常任幹事で熊本県の被災地視察を行いました。

前震・本震の震度7を2回経験し、前震から3日間で震度6以上が7回、まさに恐怖の毎日だったと思われ、私たちが他人事ではないとつくづく思いました。

まず益城町を視察、町全体はTVや写真で見た被災直後に比べ瓦礫処理が済み、道路も舗装され一見復興されているように見受けられるが、全壊、半壊家屋で撤去された空き地が点在しており、道路も仮舗装のためデコボコで、橋桁がずれたままになったところもあり、まだまだ復興にはほど遠いことを実感しました。続いて、大規模な土砂崩れにより崩落した阿蘇大橋を視察、幅200m、高さ700mに亘って崩れ、阿蘇大橋を崩落させたエネルギーの凄まじさを実感しました。

午後5時からは、熊本労福協三役の方々との懇談会を開催し、意見交換を行いました。懇談会前に、チャリティーコンペ・講演会等でご協力いただいた義援金等10万円を、高田会長から上田熊本労福協理事長に贈呈しました。

懇談会は、熊本地震の被害状況と対応について説明を受け、2017年5月までに震度1以上の余震が4332回も続いており、まだまだ地震が収まっていない状況にあり、地震直後には沢山のボランティアの方にお手伝いしていただきましたが、受け入れ態勢が整わず折角来ていただいた方々に指示が出来ない状況(行政職員も被害者であった為)、今後、災害が起きた際の国も含めた災害対応マニュアルが必要と強調された。

第13回 顕彰者追悼式を開催!

10月27日に社会貢献顕彰碑の前で、第13回岐阜県社会貢献顕彰者追悼式を開催しました。当日は晴天に恵まれ青空の下で式典を行なうことができ、清々しさの中、厳かに追悼式が進行されました。

追悼式には、顕彰碑に奉納されている19名の顕彰者の内、ご遺族7名に参列していただき、顕彰委員会委員とともに式典を行ないました。

追悼式前に顕彰碑に奉納されている銘版を遺族及び参列者に初めて披露し、ご遺族からは、お身内のお名前をご覧になり感慨と感謝のお言葉をいただきました。

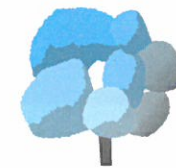
式典は顕彰委員会委員長の高田会長より岐阜県における労働運動や社会運動、平和と民主主義を守る運動に貢献された先人の霊を慰めその功績を偲ぶために建立された顕彰碑「やすらいの碑」の説明と参列者への感謝を込めた挨拶がされました。続いてご遺族ならびに参列者全員、顕彰碑に献花を行い、ご遺族からは、銘版を拝見できたことと、毎年、追悼式を開いてもらい大変有難いとお言葉をいただきました。



▲顕彰碑献花



▲高田顕彰委員会委員長あいさつ



2017年岐阜労福協 理念・歴史・政策セミナー開催!

9月27日にワークプラザ岐阜5F大ホールにて、中央労福協アドバイザーの高橋均氏を講師に「2017年岐阜労福協主催 理念・歴史・政策セミナー」を開催しました。

セミナーには次世代の組合役員および事業団体の若手職員ら106名が参加しました。

セミナーは「労働者自主福祉運動の始まりとこれから」の演題で、労働金庫・全労済の誕生と労働組合のかかわりを中心とする約1時間30分の講演でした。

講演では結成間もない労働組合がイデオロギーや意見相違により分立して行く中で、労働組合と生協が連携し「福祉はひとつ」の創業精神に則り「中央労福協」が結成された歴史や、～質屋と高利貸しからの解放を目指して～労働者のための銀行として労働金庫が設立されたこと、また、新潟労福協が始めた火災共済直後に発生した「新潟大火」により共済掛金が不十分なか、共済金の支払いをしたことを機に、全労済運動が全国に広がった背景について説明を受けました。

参加者からは「労働金庫」「全労済」の成り立ちが判り、これからの労働運動の中に活かしていきたいとの貴重なご意見を頂きました。

岐阜県労働者福祉



▲講師：高橋均氏



▲セミナー風景